

oase workshop

心理士と読み解く源氏物語

源氏物語から女性の生き方を考える

臨床心理学者 河合隼雄著

「紫マンダラー源氏物語の構図」をテキストとして～

＊日時：毎月1回（土）12：00～14：00

2026年予定 9月19日/10月17日/11月28日/12月26日

＊場所：心とからだのケアスペースオアーズ

＊テキスト：河合隼雄著

改訂版「源氏物語と日本人－源氏物語の構図－」（文庫/岩波書店）

＊いざない手：オアーズカウンセラー唐澤由理

＊参加費：各回2000円

＊準備するもの：テキスト・筆記用具

事前に現代語訳や漫画などであらすじや登場人物を知っておくと
わかりやすくなります

2027年の予定は後日お知らせします

問い合わせ：オアーズ/唐澤

唐澤mail address：

carespaceoase-karasawa@yahoo.co.jp

（詳細は裏面）

臨床心理学的視点で「源氏物語」読み解くこと

千年を越えて時代ごとに様々に読み継がれてきた「源氏物語」ですが、2024年にはNHKの大河ドラマで取り上げられるなど、現代まで途絶えることなく読み続けられています。

では、臨床心理学の視点で読み解くとはどういうことでしょうか。臨床心理学を日本に根付かせ、心理療法の日本における社会的認知に大きな役割を果たされた河合隼雄氏は、早くから日本の神話や昔ばなし、物語文学に注目し、ユング心理学をもとに日本人の文化・宗教観について独自の論を展開しました。その研究は源氏物語に及び、2000年に「紫マンダラー源氏物語の構図」(小学館)が上梓されました。その著述で「源氏物語は光源氏よりもおんな君たちを描いた物語で、六条院が光源氏を中心としたマンダラであると考えられないか」という独自の論を展開しました。これは、当時の源氏物語の研究者たちにも斬新な論として注目されたようです。

オアーゼのワークショップで「源氏物語」を読み解くこと

このワークショップでは、ご参加者の皆様のご自身の感じたことを語って下さい。そして他の方の語りに耳を傾けてください。新たな解釈につながるかもしれません。もちろん柱とするのは、河合隼雄氏のテキストによる臨床心理学的な解釈です。さらにいざない手から古典文学としてのコメントも加えられます。源氏物語は、多様な読み方がなされ、研究が続けられてきました。多くの作家により個性的な現代語訳本も出版されています。それほどの豊かさをもつ源氏物語は、参加した皆様の人生経験を載せて味わうに値する作品であるに違いありません。

ワークショップの進め方

河合隼雄著「紫マンダラー源氏物語の構図」(「源氏物語と日本人―源氏物語の構図」でも)をテキストにして読み進んでまいります。その折に、理解を深めやすいように本文や資料を適宜用意いたします。いざない手がテキストに沿って概要を整理し、それに対してご参加の皆様から感じたことを語っていただきます。感想で構いません。「推し」のおんな君がいるという方もいらっしゃるでしょう。自由にお話してください。テキストをもとに、河合氏の臨床心理学的な解釈や、いざない手からの古典文学としての解説も加わり、他の方の話に刺激されて、新たな読み方が生まれるかもしれませんし、そこにこれまでよりも深い気づきが生まれる可能性を感じます。河合氏のテキストにあるように、母・妻・娼・娘・に分けて、その生き方を河合氏独自の臨床心理学的に読みに沿って読んでまいります。そして、そして最後には作者紫式部の思いに触れていきたいと考えています。私は、学生時代に指導教授が「年を重ねて読み直すと、今と違う読み方ができるはずだ」と語っていたことを覚えています。その言葉が思い起こされ、人生経験を積んで皆様と源氏物語に登場するおんな君について、時代を越えて社会の制約の中で生きる女性の普遍的な心の諸相について考えていきたいと思ひます。



いざない手―唐澤の紹介

臨床心理士・公認心理士としてオアーゼでカウンセリングを担当しております。高校卒業後に大学・大学院修士課程で中古(平安)文学を修めました。源氏物語を中心にして枕草子や日記文学を研究し、その後方向を変えて臨床心理学の修士課程に進み現在に至ります。源氏物語は、当時の社会や政治システムを考慮しながら歴史社会学的な視点をもって解釈する指導の

下で学びました。京都の源氏物語のゆかりの地にもたびたび足を運びました。

継続参加をお勧めします

月1回の開催ですので、テキストを読み終えるまで、継続してのご参加をお勧めします。各回ある程度のまとめをし、欠席回の資料は後日お渡しできます。高校の古典が苦手だった方でも大丈夫ですので、お気軽にご参加ください。